

Arcserve® D2D for Linux r16.5

RDX 利用ガイド

Rev: 1.1

目次

1.	はじめに.....	1
1.1	構成例.....	1
1.2	製品のインストールと操作	1
2.	バックアップ先の設定とバックアップ	2
2.1	バックアップの設定とバックアップ	2
3.	リストア	2
3.1	ファイルのリストア.....	2
3.2	ベアメタル復旧.....	3
4.	注意事項.....	4
4.1	バックアップ データ ボリュームの除外	4
5.	製品情報と無償トレーニング情報	5
5.1	製品情報.....	5
5.2	トレーニング情報	5
5.3	お問い合わせ.....	5

すべての製品名、サービス名、会社名およびロゴは、各社の商標、または登録商標です。

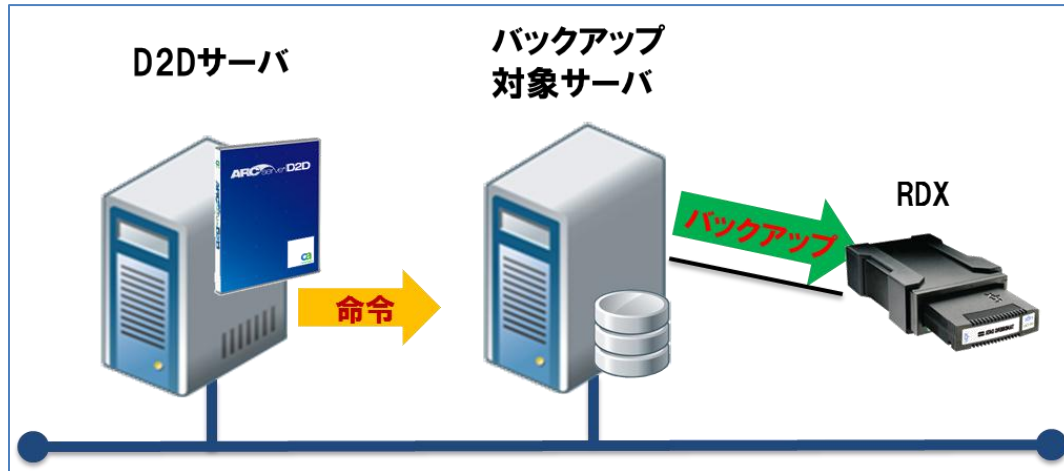
本ガイドは情報提供のみを目的としています。Arcserveは本情報の正確性または完全性に対して一切の責任を負いません。Arcserveは、該当する法律が許す範囲で、いかなる種類の保証(商品性、特定の目的に対する適合性または非侵害に関する黙示の保証を含みます(ただし、これに限定されません))も伴わずに、このドキュメントを「現状有姿で」提供します。Arcserveは、利益損失、投資損失、事業中断、営業権の喪失、またはデータの喪失など(ただし、これに限定されません)、このドキュメントに関連する直接損害または間接損害については、Arcserveがその損害の可能性の通知を明示的に受けていた場合であっても一切の責任を負いません。

1. はじめに

Arcserve D2D r16.5 for Linux(以降 D2D Linux) は、RDX を使用したバックアップ/リストアが可能です。このガイドでは D2D Linux で RDX を利用する際の手順を示します。

1.1 構成例

バックアップ対象サーバへ RDX を接続し、RDX へバックアップします。



※ここでは RDX を接続する例を示していますが、バックアップ対象マシンのローカル ハードディスクにバックアップする場合も同様の手順でバックアップ/リカバリしていただけます。また、スタンドアロン構成でも、以下の手順で同様にご利用いただけます。

1.2 製品のインストールと操作

製品のインストール及び、操作方法については以下のガイドを参照してください。(本ガイドでは RDX に特化した内容のみを記載しています。)

『トライアルガイド:モジュールダウンロードから環境設定、復旧まで』

<http://www.arcserve.com/~//media/Files/TechnicalDocuments/asd2d-l-r165-Trial-guide.pdf>

2. バックアップ先の設定とバックアップ

2.1 バックアップの設定とバックアップ

--- RDX メディアの認識 ---

- (1) バックアップ対象サーバに RDX を接続し、RDX のフォーマット タイプを確認します。
- (2) (1)で NTFS にフォーマットされていた場合、D2D Linux が対応しているファイル システムでフォーマットし直します。
- (3) RDX を任意のディレクトリにマウントします。

例)

```
# mkdir /mnt/rdx
# mount /dev/sdc1 /mnt/rdx
```

※ ここでは、新規にディレクトリを作成し、マウントしています。

--- バックアップジョブの作成 ---

- (4) D2D Linux の WEB UI より、バックアップジョブを作成します。
- (5) バックアップ先で [ソースローカル] を選択し、/mnt/rdx に指定するジョブを作成し、バックアップ を実行します。

バックアップ先

ソースローカル /mnt/rdx

i [ソースローカル] デスティネーション オプションの復旧ポイントを管理する方法の詳細については、この画面の下部にある [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。

3. リストア

3.1 ファイルのリストア

- (1) バックアップ対象サーバに RDX が接続され、カートリッジが挿入されていることを確認します。
- (2) ブラウザを起動し、D2D サーバに接続します。
- (3) Web GUI 画面から、[リストア]アイコンをクリックし、ドロップダウンメニューから[ファイルのリストア]を選択します。
- (4) リストア ウィザードが開始されるので、[次へ]をクリックします。
- (5) セッションの場所で[ローカル]を選択し、バックアップした RDX(ここでは/mnt/rdx)を指定して、[接続]ボタンをクリックします。

回復する復旧ポイントを選択します。

セッションの場所 ローカル /mnt/rdx

マシン d2d-server

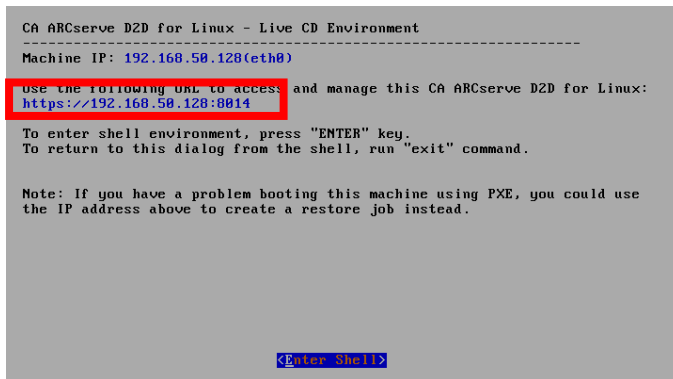
接続

- (6) リストアしたいファイルのバックアップ対象サーバ、復旧ポイント、リストアするファイルを指定しリストアを実行します。

3.2 ベアメタル復旧

D2D Linux インストール時に作成される ISO イメージを書きこんだ Live CD で起動し、RDX に保存されているバックアップ データからベアメタル復旧を行います。(ISO イメージは、/opt/CA/d2dserver/packages ディレクトリに作成されています。)

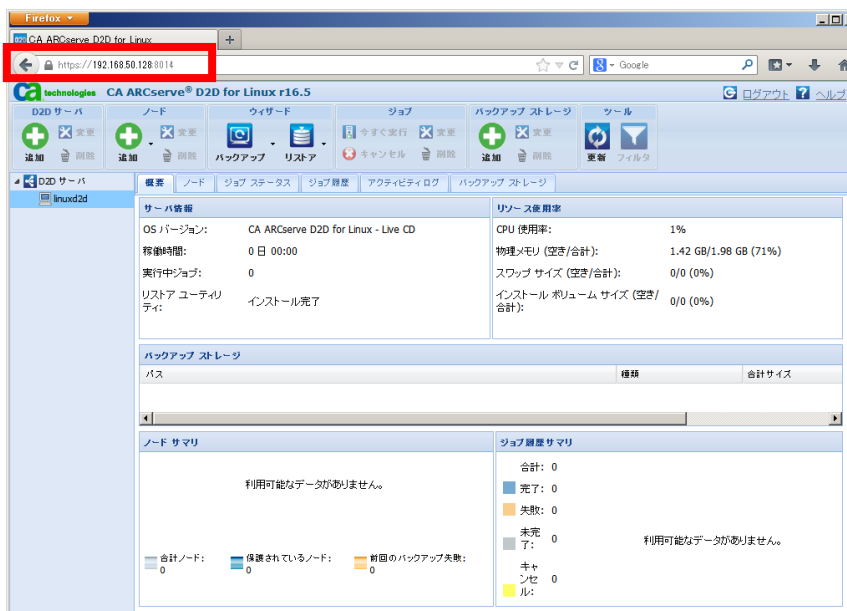
- (1) ベアメタル復旧するマシンに RDX が接続され、カートリッジが挿入されていることを確認します。
- (2) Live CD を CD/DVD ドライブにセットし、ISO イメージから復旧対象のサーバを起動します。
- (3) Live CD と接続するための URL をメモしておきます。



- (4) [Enter Shell]をクリックし、Shell モードに入り、RDX をマウントします
例)

```
bash-4.1# mkdir /rdx
bash-4.1# mount /dev/sdc1 /rdx
bash-4.1# _
```

- (5) 手順(3)でメモした Live CD を指定し、ブラウザから Live CD へ接続します。



- (6) [リストア]アイコンから[ベアメタル復旧(BMR)]を選択します。
- (7) リストア ウィザードを進め、セッションの場所で[ローカル]を選択し、バックアップした RDX(ここでは /rdx)を指定して、[接続]ボタンをクリックします。

回復する復旧ポイントを選択します。

セッションの場所 ローカル /rdx 接続

マシン target-server

- (8) リストアしたい復旧ポイントを選択し、リカバリ対象のディスク名を確認し、[次へ]をクリックします。
- (9) [MAC/IP アドレス]に Live CD 画面に表示されている IP アドレスを入力し、[ターゲットマシンの設定]の各情報を入力します。
- (10) 実行スケジュールを設定し、ベアメタル復旧を実施します。
- (11) リストアが開始されたら、Live CD を CD/DVD ドライブから取り出します。
- (12) ベアメタル復旧後は自動でサーバが起動するので、リカバリが完了していることを確認します。

4. 注意事項

4.1 バックアップ データ ボリュームの除外

D2D Linux では、バックアップ先のボリュームを自動的にバックアップ対象から除外します。しかし、同一のカードリッジに対しマウントパスが複数存在する場合、バックアップ先のボリュームが除外されません。自動マウントによって設定されたマウントポイントをアンマウントし、バックアップ先に指定したディレクトリを唯一のマウント先としてください。

[参考:バックアップ先ボリュームの除外メッセージ ログ]

!	45	バックアップ - 2013/10/31 午後 4:01:00	2013/12/4 午後 7:16:41	target-server	指定されたバックアップ先 (/mnt/rdx) が同じボリュームに配置されているため、ボリューム /mnt/rdx はバックアップ ジョブから自動的に除外されます。
---	----	--------------------------------	----------------------	---------------	--

5. 製品情報と無償トレーニング情報

製品のカatalogやFAQなどの製品情報、動作要件や注意事項などのサポート情報については、ウェブサイトより確認してください。

5.1 製品情報

製品マニュアル

<http://www.casupport.jp/resources/D2D165lnx/manuals/>

動作要件

<http://www.arcserve.com/jp/lpg/jpsupport/sysreq/d2d165lnx.aspx>

その他のサポート情報

<http://www.arcserve.com/jp/support.aspx>

5.2 トレーニング情報

各種トレーニングを開催しております。

◆ 無償トレーニング

機能を速習する Arcserve シリーズの無償ハンズオン(実機)トレーニングを毎月実施しています。どなたでも参加いただけますので、この機会にご活用ください。(競業他社の方はお断りしております。)

<http://www.arcserve.com/jp/lpg/seminar.aspx>

◆ セルフ トレーニング

Web で気軽に Arcserve シリーズの画面を操作できるセルフトレーニングも用意しています。是非ご活用ください。

<http://www.arcserve.com/jp/lpg/online-demo>

5.3 お問い合わせ

本ガイドに関するご質問やお問い合わせ、製品ご購入前のお問い合わせはジャパン ディレクトまでご連絡ください。

Arcserve ジャパン ディレクト連絡先 (<http://www.arcserve.com/jp/lpg/customer-care.aspx>)

フリーダイヤル:0120-702-600

E-mail : Web フォーム(https://ssl.caj.co.jp/caform/index.php5?proc=form_quest&form_id=1367)

営業時間: 平日 9:00~17:30 ※土曜・日曜・祝日・弊社定休日を除きます。

※Arcserve 製品に関しては、Facebook ページ(Arcservejp)でも受け付けています。